



【令和元年度災害対処訓練】

令和元年11月23日

令和元年11月23日（土）自衛隊札幌病院（病院長：大鹿陸将）は、北海道胆振東部地震の成果を踏まえ修正した自衛隊札幌病院道央地域（札幌地区）大震災対処計画及び自衛隊札幌病院災害派遣行動規定に基づき各種初動対処要領及び各種計画の実効性について検証するとともに、事態発生時における対処能力の向上を図ることを目的に災害対処訓練を実施した。

訓練に先立ち、職員1人1人がアクションカード（災害時における任務・地位・役割）を作成するとともに、図上訓練を実施して、発災後の行動についてイメージアップを図り本訓練に望んだ。訓練は、平日の0755に月寒断層を震源地とする震度6以上の地震が発生し、ライフラインの途絶や交通機関が一部麻痺している状況で開始され、「病院施設の点検」「作戦室の開設・運営」「子弟一次預かり所の開設」「大量傷者対処チームの運用・活動及び病院各部門との連携要領」について検証した。準備の段階から人員配置や資材等見積もることの重要性を再認識するとともに、各部課等の連携要領を具体化するなど、じ後の計画等の実効性向上の資を得た。また、本訓練には北部方面総監（吉田陸将）、北海道の危機対策課長を始め、札幌市保健福祉局及び札幌市医師会並びに札幌医科大学、予備自衛官の医師など8名の方々に研修いただき、研修後の意見交換において活発な議論が行われた。



病院施設の点検



作戦室で指揮を執る病院長（大鹿陸将）



作戦会議



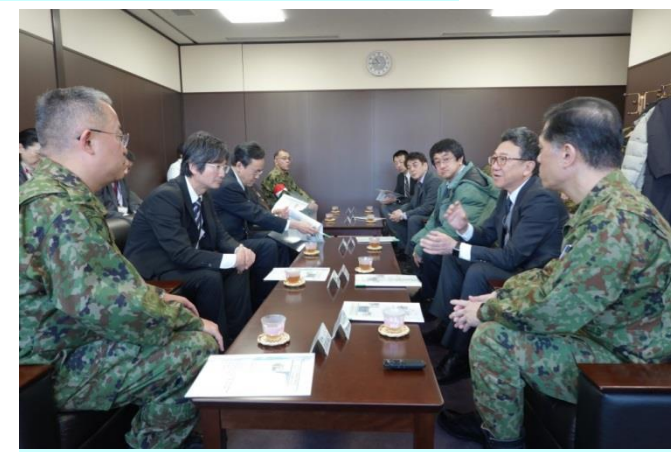
大量傷者対処チームの連携



子弟一次預かり所



大量傷者対処チームの連携



研修者との意見交換会